

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	申請大学名	京都大学
申請大学長名	松本 紘		
プログラム責任者	湊 長博		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学全体としてのリーディングプログラムのための制度整備は進捗しているが、学生募集、教育カリキュラムの整備、共同の教育設備・システム等の整備はこれからであるという印象を受けた。特に、学生の募集および配属などをめぐって、プログラムを構成する医学研究科、および、それ以外の研究科関係者において十分な意思の一致に欠ける点を感じられ、プログラム全体の統合性にやや欠ける印象を受けた。採択2年度目の初頭であることを割り引いて考えても、今後のプログラムの一体性を実現するためには、相当の努力を必要とすると考えられた。 学生の本籍が複数の研究科にまたがっており、複数のキャンパスで教育を行う場合の時間配分、教育内容の精査が必要であると思われた。 理工学出身の学生に、医学部学生に「匹敵する」医学知識を与えるという目標に対し、実際に必修として用意されているのは解剖学と生理学、医療・生活支援システム学だけである。学生に求める能力を再確認した上で、そのために必要な基礎的医学知識の整理と具体的なカリキュラム・教育法についての一層の検討が必要であると思われた。 教員およびメンター等を含めた指導・支援体制は学生が入学していないこともあり、順調に構築・運営されているとは言えない。 全学的な改革構想のなかで、本プログラムが占める位置について、他のリーディングプログラムと横並びであることに終始している印象である。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生募集が始まっていないため、どのような学生が集まってくるのか未知数といわざるを得ないが、プログラム内においては、入学してくる学生の質を考慮し、焦点を絞った教育システムおよびカリキュラム体系の整備が必要である。 理工学系の学生、および外国人学生に対して、本プログラムの出口を含めたキャリアパスを提示できるよう、産学官の一層の連携・協力を進める必要がある。 教育設備は、ようやく、スペースを確保した段階であり、共通の設備・教育環境等の整備には相当の努力を要する。 優秀な学生の確保のために、組織的なリクルート活動、ガイダンス等が必要である。 学位の水準および要件について、理工系と医学系の教員とで理解の違いがあり、最終的に養成される博士課程の学生の修了時の教育水準について、さらに意見の統一を図る必要がある。 初年度予算において購入した機器等は、プログラムの実施に特化したものが少なく、全学ないし特定の学部・研究科の共通研究機器を充実することに用いられたものが多いので、このプログラムの実施に絞った経費の使用を心がけるべきである。 既に締め切られた今年度の学生募集に応じた学生数が、年度あたりの受け入れ学生数を大幅に割り込んでおり、追加募集等の適切な対応が必要である。 			